

# 三菱商事の社会貢献活動の現状



滑川 修（なめかわ おさむ）  
三菱商事株式会社  
広報部社会・環境室長

## 1. 社会貢献の理念

三菱商事の社会貢献活動は、今から30年以上前の1973年から始まっています。当時の社長藤野忠次郎は、1973年7月19日、社会貢献の重要性について講演を行いました。その中で、「企業はその企業活動を通じて（生ずる有形無形の）社会的コストをまず負担し、企業としての社会のサービスを提供した後に利益の享受をすべきである」と話しました。このことは、企業が利益の上がったときに利益の一部を社会貢献にまわすということではなく、利益の上がないときでも、企業が社会に存在するために、社会的コストを社会への参加費として負担するということです。

当社では、このスピーチのあった1973年10月に、社会貢献を担う専門部局である社会環境室を設置し、以降、国内外でさまざまな社会貢献活動を行っています。

社会貢献に関する基本理念としては、1991年に「グッド・コーポレート・シチズンとしての自覚を持ち、地球的視野から社会に対し幅広い貢献活動を行う」ことが制定され、これに基づき、「地球環境」「福祉」「国際交流」「文化・芸

術」および「教育」の5つの分野において、「継続性」と「社員参加（社員が汗をかくこと）」を重点に置いてこれまで活動を行ってきましたが、今後ともこれらの活動が社会貢献活動における重点施策であることに変わりありません。

## 2. CSR

次に、当社のCSR（企業の社会的責任）に対する基本的な考え方についてご紹介します。当社には、創業以来の社是である「三綱領」があります。「三綱領」は、三菱4代目社長岩崎小彌太の訓諭をもとに、1934年に旧三菱商事の行動方針として制定されたものです。

「所期奉公」：事業を通じ、物心ともに豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえない地球環境の維持にも貢献することです。社会に対する責任を果たすことは、当社社員の原点であると言っても過言ではありません。

「処事公明」：公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持することです。当社はこれまでも活動の公開性・透明性を堅持した活動を行ってきましたが、今後、当社を取り巻くステークホルダーの情報開示に対する要請は、ますます高まると考えられるため、今まで以上に当社としての考え方をしっかりと開示していきたいと考えています。

「立業貿易」：全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図ることです。当社の活動領域は、地域的にも、ビジネス分野的にも非常に幅広く、多様なステークホルダーが存在します。そのため、日常の業務においても、お客様やパートナー、地域社会との対話を心がけています。その中でも、特にその国や地域の経済発展に寄与するという視点を忘れてはならないと考えています。経済発展に寄与するということは、社

会そのものへの貢献につながるからです。

当社はまず、社是である「三綱領」をCSRの基本理念とし、CSRを「本業における環境・社会（特に人権、労働）への配慮をあらゆるステークホルダーの視点を考慮しつつ企業が自主的に行うこと」であると考えています。CSRには、コンプライアンス、ガバナンス、説明責任、情報開示および社会貢献などさまざまな要素が含まれていますが、今後ますます多様化するCSRへの要請に誠実に応え続けることこそが、当社の使命と考えています。

### 3. 社会貢献活動紹介

当社が行っている主な社会貢献を、1970年代から時系列的にご紹介します。まず、74年から開催している「母と子の自然教室」です。これは、東京都内に住むひとり親家庭の母親と子どもを3泊4日のキャンプに招待するもので、今年で32年目を迎えました。自然の中で、山歩き、キャンプファイヤーなどをしながら、当社の社員ボランティアと共に4日間を過ごすことで、日常の忙しさと悩みを忘れ、元気づけられたいと願っています。30年間以上続いていますので、参加者は延べ15,000名以上を数えています。このプログラムは継続性、テーマ、社員参加が高く評価され、90年に厚生大臣より表彰されています。

また、障害者の方々も健常者と同じように働くことのできる社会こそが豊かな住みよい社会である、との考えから当社では、身体障害者への支援も開始しました。79年には社会福祉法人

「東京コロニー」と「太陽の家」へコンピュータを寄付し、障害者がコンピュータのプログラマーを職業として自立できるよう、それぞれ情報処理センターを開設、重度身体障害者の本格的な職能開発を行っています。83年12月には、当社と太陽の家の共同出資により、三菱商事太陽(株)を設立しました。障害者の社員が、コンピュータによる情報処理の受託、マルチメディア・コンテンツの制作、オンデマンド印刷、Webコンテンツの制作などを手掛け、自らの力で経済的自立を実現しようと活動しています。

1990年代には、地球環境問題への取り組みを開始しました。90年に「マレーシア熱帯林再生実験プロジェクト」を開始し、横浜国立大学名誉教授宮脇昭博士による潜在自然植生理論に基づく“ふるさとの木によるふるさとの森づくり”に積極的に取り組んでいます。この理論は、現地固有の植物を密植・混植方式で植林して、40～50年という短期で自然林に近い生態系をよみがえらせるというものです。

2000年代になってからの新たな取り組みとしては、サンゴの白化防止研究支援があります。当社では、2005年より、日本、米州、欧州の3拠点を中心に、サンゴ礁の健全性保持と回復技術の確立・普及をめざした環境保全型の社会貢献事業「海洋生物研究プロジェクト」を開始しました。本プロジェクトの研究成果を広く世界各地で活用していただけるよう多方面に発表していくと同時に、社員はもとより一般の方々からもボランティアを募り、研究活動への参加を通じて環境問題について理解を深めていただくこととしています。

なお、三菱商事の社会貢献活動の詳細につきましてはホームページにおいても紹介していますので、ぜひご覧いただきたいと思います。



ボルネオ熱帯林植樹



海洋生物研究プロジェクト  
(サンゴ礁の回復)